第６回金浦中ブロック小中一貫教育校整備検討委員会会議録

日 時　 令和５年２月１０日（金）１０時００分～１１時３９分

場 所　 笠岡市分庁第４　２階　大会議室

会 議 日 程

１　開　　会

２　あいさつ

３　議　　事

（１）配置図について

（２）平面図について

（３）パースについて

４　閉　　会

出席者

（委員長）佐々木伸子

（副委員長）原田博道

（委員）池田哲哉　筒井清人　藤井清二　高木浩志　徳山功一

　荒川光平　大友萌　出柄龍志　塚本知佳

（事務局 教育委員会）

教育長　岡田達也（他の公務のため途中退席）

教育部長　森山一成

教育総務課　課長 松尾千鶴　　課長補佐 藤代幸弘　　主幹 福本彰弘

学校教育課　課長 槙野英一　　参事 平田日出子

教育改革推進室　廣井正己

（(株)日総建）日下部寛之　吉川文乃

１．開会（１０時００分）

事務局が第６回「金浦中ブロック小中一貫教育校整備検討委員会」の開会を宣言。

２．開会のあいさつ

教育長が開会のあいさつをする。

３．議事

　　佐々木委員長が議事進行

（１）配置図について・（２）平面図については，関連する内容のため一括して説明。

事務局　　　　「資料３」に基づき説明。

資料１の配置図で，学校の敷地の北西と北東側に黄色で網掛けした部分を追記している。この黄色のエリアは，土砂災害警戒区域に指定されている部分で，校舎等の最終的な配置案ができたので，明示している。

現在，教育委員会が行っている，地域の方や保護者を対象にした説明会でも『浸水・土砂災害対策』については，多くの質問等をいただいている。本日，委員の皆様にも災害想定の内容や対策などについて説明させていただく。

まず，「浸水対策」だが，資料３の１ページの赤色のエリアが，平成３０年７月豪雨で浸水した区域を示している。金浦中学校はそのエリア内にあり，学校の敷地は浸水したが，建物部分については建設時にかさ上げされており，また，建物自体も杭により支持されているため沈下もなく，浸水は免れた。

新しく建てる校舎についても，同様に杭を打ち，建物部分はかさ上げを行って，浸水しない高さとすることで，安全を確保したいと考えている。

次に土砂災害について，資料３の２ページをご覧いただきたい。黒い太線で囲んでいるところが，金浦中学校の敷地である。赤色は「土砂災害特別警戒区域」，黄色のエリアは「土砂災害警戒区域」を示している。金浦中学校の北西側に松川川，北東側に安原川があり，学校の敷地の一部が「土砂災害警戒区域」に入っているのがわかる。

なお，土砂災害警戒区域については，資料３の３ページの「土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域等について」をご覧いただきたい。右下の赤色「土砂災害特別警戒区域」は建物を建てることが規制されているが，左下の黄色「土砂災害警戒区域」は，“危険の周知”や“避難体制の整備”が必要となっているものの，建物を建てることへの規制はない。

金浦中学校付近の２つの土砂災害警戒区域について，説明したい。北西側にある松川川については，岡山県が事業主体となり，土石流の被害を防止するための「砂防ダム」の設置について，令和５年度に実施設計を行い，その後令和１１年度にかけて工事を実施する予定である。

北東側にある安原川については，がけ崩れ対策として，現在，山際に落石防護柵が設置されているが土石流の対策としては十分でないため，小中一貫校の建設にあたっては，土石流への対策を更に岡山県に要望していく。

次に，資料３の４ページをご覧いただきたい。安原川での土石流の発生時の土石流の高さを２０ｍ毎に予測したものである。１２番の太線がちょうど金浦中学校の敷地付近になり，想定される土石流の高さは１０ｃｍとなっている。現況では，学校の敷地は周辺道路より，２０ｃｍから５０ｃｍ程度上がっている。

新しく建てる校舎は，平成３０年７月豪雨で浸水を免れた中学校の高さまでかさ上げを行うと共に，警戒区域に含まれている部分については，必要に応じて敷地周辺に土留めとなる擁壁の設置などの検討を行いたいと考えている。

現在，市内の小中学校では午前７時時点で何らかの警報が出ている場合や，警報が出ていなくても危険が予測できる場合には，臨時休校とするようにしているため，浸水等災害の可能性がある時に登校することはない。また，学校では災害時の避難訓練等も行っており，ハード面のみならず，ソフト面でも，災害対策をしっかりと行うことで，子どもたちが安心・安全に学ぶことができるよう学校建設を進めてまいりたい。

日総建　　　　　「資料１　配置図・平面図・立面図」に基づき説明。

配置計画・平面計画に関して，変更点を説明したい。前回の検討委員会において，前回示したＡ案をもとにいただいた意見を踏まえて，修正を行った。（資料１の１ページ参照）

【配置計画の変更点】

・テニスコート…元々北側の校庭を想定していたが，南棟の南側にテニス

コート３面を移動。

・児童クラブ　配置候補①…小学校に近い位置ということで，児童クラブの候補を設定。

・児童クラブ候補②…土砂災害警戒区域外ということもあり，場所を設定。

・コンテナ室…前回は小中をまとめたコンテナ室を計画していたが，中学校用のコンテナ室と小学校用のコンテナ室に分けて計画した。中学校用コンテナ室は，既存と同じ場所を使用。小学校用コンテナ室は，新築棟の正門東側に配置する計画としている。

【既存中学校棟の改修工事】

・渡り廊下の改修…前回，既存の渡り廊下を改修して段差をなくす方針だったが，工事の期間や進め方を検討した結果，東側に新しい渡り廊下を設けるという計画に変更となった。西側の既存の渡り廊下をそのまま残すため，渡り廊下が２つになる。

・昇降口の位置…小学校の昇降口は低学年の遊び場に見えやすい位置として，新設棟の東側に入るような位置に設置。それに近い位置として，職員・来客玄関を設置。新設棟の西側に入る玄関として，サブ玄関を設けている。

・校舎廻り…体育器具庫と倉庫を新設棟の南東側に配置した。その近くに，体育で使う鉄棒や砂場というものを設置。

【動線について】

・歩行者の動線…北門から入って来る動線。また，バスロータリーからバスを降りて，南側から新設棟・既存棟の昇降口に入っていく。

・自転車…資料の赤い点線。中学校の校舎に近いため，西側にすべてまとめる計画としている。駐輪場で自転車を降りた後は，校舎の間を通って，それぞれ中学生が昇降口へ向かうという動線になっている。

・給食車両の動線…（中学校）西側，既存の入口から中学校のコンテナ室に入る。（小学校）北側に給食車両の入口を新設。

・車両動線…緊急時はピロティ部分に車両が横づけできる。

【平面計画】

（資料１の２ページ参照）

・普通教室…新校舎に小学生，既存校舎に中学生という方針に変更なし。

・管理諸室・特別教室の配置…変更あり。

・昇降口…小学校１年生から６年生の昇降口を新設棟の低学年のあそび場の西側の位置に配置。その近くに職員・来客玄関を配置して，ここに展示コーナーを設け，統合前の小学校の記念館等を配備する場所になっている。

・１階…（新設棟）普通教室は，小学校１年生から４年生の中庭側に廊下兼オープンスペースがある多目的スペースを設け，小体育館を校舎の横に配置しため，多目的スペースから体育館にかけてコの字型の通路が形成されている。これにより，回遊性のある空間となっている。この中庭は，低学年のあそび場として遊具を置く計画。管理諸室は，職員室をピロティ東側部分に配置。隣に事務や印刷室，校長室を配置。これにより，校庭に視線が通るし，児童の教室にも近い位置に置けた。ピロティ空間を挟んだ西側に保健室や小学生の特別支援教室等・別室等を設けた。

（既存棟）入口から近い位置に，展示室やＰＴＡ・ボランティア室といった，外部の方が入ってこられる部屋を配置。南棟は，中学校の特別支援教室などを，昇降口に近い位置に配置。

　　　　　　　　（資料１の３ページ参照）

・２階…（新設棟）小学校５・６年生の普通教室は西側に配置。これにより，小学校５年生から６年生，中学校１年生という中期のまとまりを近い位置で形成できている。また，大きな面積を必要とする図書室を配置。ここは学校の中心ともなる場所になるので，面積が大きく，小中の間になる場所に配置した。また，図書室横に少人数教室を設けることで，図書室で調べ物をしながら授業をするというような使い方も可能となる。

（既存棟）前回の計画から既存棟に特別教室がいくつか移っており，英語教室や数学教室などが，北棟に配置した。南棟の方には英語教室や家庭科室，被服室などがある。また，東側に開放の渡り廊下を新設するため，小学生が使う家庭科室などが，動線的に近い位置に配置することができた。

（資料１の４ページ参照）

・３階…（新設棟）２階の図書室を天井の高い広がのある空間とするため，吹き抜けとなっている。（既存棟）多目的室と特別教室等を配置。北棟は小学生が使う音楽室や理科室，図工室を近い位置に配置。南棟は中学生が主に使う音楽室・美術室を配置。

委員長　　　　　最初に浸水・土砂対策の説明があった。今まで委員の皆さんや学校現場の意見を伺いながら，小学校棟等の新築部分の配置についての案がだいぶ固まってきたので，配置図に土砂災害警戒区域というものを記載して，事務局から土砂災害の基本的な説明をしてもらった。説明のとおり，黄色の土砂災害警戒区域は，建物を建てることに規制はない。北西にある松川川は，県が事業主体となり令和５年から砂防ダム整備の準備を進めていくことが決まっている。そのため，松川川については，解決していくという状態である。また，北東側の安原川は土砂災害があったとしても，想定される土石流の高さは学校敷地付近で１０ｃｍ程度ということなので，敷地自体がそれより１０ｃｍ上がっているという状況とのこと。さらに必要に応じて擁壁などの対策を検討するということだった。学校敷地内は一部が黄色のエリアにはなっているが，土石流はこの状態だと問題なさそうな感じを受けたのだが，皆さんは土石流・土砂災害の説明に関して，何か意見があるか。

事務局　　　　　なんでも遠慮無く出してもらったらと思う。

委　員　　　　　この世の中，事故が起これば，想定外というもので済まされているようだが，そのあたりはどう考えているか。

委員長　　　　　想定外。確かに最近よく聞くが。想定外に多くの土砂が流れ込むということか。

委　員　　　　　ことが起きれば想定外だったということで言い訳されている昨今なので，そのあたりは余力を持っているのだろうか，大丈夫だろうかと。

事務局　　　　　今予測されているのは約１０ｃｍとなっている。確かに想定外の土石流が来る可能性はないことはない。現況でも敷地が上がっているし，新しく建てる校舎についても，今よりも更に嵩上げすることを検討しているので，想定外のものが来たとしてもカバーできるのではないか，とは思っている。実際に周りの敷地を見ても，隣の東側の田んぼについて，道路より低い状態なので，土石流が流れてきても基本的には低い方に流れていくので，高くなっている学校のグラウンドにというのは想定しにくいかと考えている。

委　員　　　　　その土石流といったら山からか。

事務局　　　　　そのとおり。川があるので，そこの部分から水や土が流れてくる形になる。

委　員　　　　　理解できた。

教育長　　　　　補足だが，この資料は想定されたデータで，県から取り寄せている。これを踏まえて，ギリギリの対応だと想定外が来る可能性を想定した時に，信頼度が非常に低くなる。それよりプラスアルファを考えていきたいと思っている。今現在も２０～５０ｃｍ高いところがあるので，それをより新校舎，つまりプラスアルファの方については上げる予定である。今は金浦中学校のグラウンドが少し高くなっているが，擁壁などのきちんとした形で防御するという風に考えている。そのため，想定よりはプラスアルファを考えて対応する，それが想定外を想定してなのだが，想定外はどの程度までが想定外なのかわからない部分がある。あとは県に対する工事を安原川については要望していく。計画が出ていないので，それがいつできるかわからないため，まずは擁壁を高くする感じで考えている。

委員長　　　　　わかりやすい説明だったと思う。実際今も１０ｃｍ以上になるのを見込んで計画されている。国とか県とかが示した，こういった災害地域で線がかかってしまっていて，皆さん心配かもしれないが，レベルというものがある。すごく危ないところから一応エリアに入っているというところまであるので，一律に見ずに，土砂災害警戒区域の黄色と特別警戒区域の赤色があるので，そのあたりの対応と何を優先するか，計画のなかでそれを踏まえて，どうしても天秤にかけなければいけないが，今回は想定以上の安全対策は講じられているという計画だとのことである。

　　　　　　　土砂災害についての質問はよろしいか。

教育長　　　　　土砂災害について何かあれば，あとでも言ってほしい。

委員長　　　　　次に計画の中身についての質問はないか。

委　員　　　　　昇降口についてですけれども，中学生の昇降口はいくらか見ても複数あって，出たり入ったりがスムーズに動くのではないかなと。小学生の昇降口が１つしかない。学級・学年ぐらいだったらなんとかなるのかなと思うが，例えば１年生から６年生全員が移動するというような運動会などのグラウンドを使うような活動で，一斉にそこを使って出たり入ったりするということが，ここの１つの昇降口で可能なのかどうなのかということがちょっと気になった。

日総建　　　　　今は１箇所で計画しているが，広さについては十分確保できていると思っている。一斉に出入りするということを危惧されていると思うが，その場合については今後の設計に対しての意見ということで，設計に引き継いで計画していくということで，対応できるかと考えてる。可能性としてはより運動場などに出やすい位置に場所を変更するということもあるので，そのあたりのことを考えている。

委員長　　　　　それでは，配置図・平面図の方だが，この度検討委員会の皆さんのご意見をいただいた上で，また修正を行う。今のように言っていただければ，それをまた検討していくというである。次回の検討委員会で，完成版として皆さんにお示ししたいと考えている。そのため，今回は基本計画を修正できる最後の機会となる。配置図・平面図，それに対して気づかれたこと，こうして欲しいというようなことがあったら，ご意見を言っていただきたい。

教育長　　　　　先程議長が言われたようなスケジュールになっているので，できれば保護者の方々も加えて。児童クラブは今は候補①・②とあるので，この辺もどちらが良いのかということを，ある程度報告いただけたらありがたいと思っているため，それも併せて，いろいろな配置図を含めてご意見をいただけたらと思う。

委　員　　　　　放課後児童クラブも，ちょっと気にはなったが，児童クラブ自体が，そこの建物の中だけでいろいろ活動が終結するというか，活動するというのではなくて，例えば体育館であったりとか運動場であったりとか，他の施設なんかも活用してということになったときに，児童クラブの児童が道を隔てて移動するというのはどうなのかな，というのは気にはなるところである。

教育長　　　　　安全面からいうと，北側のところと校舎が今あるところの道を渡るようになるので，そこがちょっと気になるところである。そうすると，候補①の方が。

委員長　　　　　児童クラブの建設は，学校とはまた別の計画になっている。本当は一体化してやれるといいが。児童クラブの位置は候補②だと保護者の送迎が簡単でというのはある。

事務局　　　　　放課後児童クラブは先程言われたように，体育館を使ったりとか学校の施設を使ったりということが結構，府中学園ではあったりするのか。

委　員　　　　　例えば雨の日とか，天候によったりとか夏休みの長期休業みたいな時には，学校の施設を使うということがある。こちらのクラブの人数がどれぐらいかわからないが，府中学園の児童クラブは満員状態なので，何ともなければ活動させられるということになれば運動場を使って，子ども達が運動場で一定の時間活動しているというようなこともある。

事務局　　　　　それを想定しておいた方が良いということか。

委　員　　　　　そのとおり。

教育長　　　　　今現在が３校の，金浦・城見・陶山の学童，放課後児童クラブに入られている方が多分，合計で１２０人ぐらいいる。そのため，先程池田委員が言われたように，夏休みもお預かりしたときに，運動するときは運動場，現在も各学校で使っていただいて，暑いときは体育館とか雨が降ったときは体育館というのは，平日のときもそういう風な形でしているので，そういう風な利便性というか，使いやすさというのは必要だと思う。安全面と使いやすさというのは。

委員長　　　　　理想は候補①だと思う。他の施設も活用できるから。他に気づかれたということはあるか。図面を見てもピンと来ないかもしれないが。先生方は何かないか。

教育長　　　　　教室の配置図，これは結構大事なので。

副委員長　　　　こちらから言ったことを，いろいろ汲み上げていただき，考えていただきありがたく思っている。その中で，整備コンセプトに戻ると，多様な学びとか，あるいは一体型のメリットとか，そういった辺りがしっかり，本当にやりやすいというか，考えられた配置になっている。

私の中で気になっているが，インクルーシブ教育のところで，新築棟の西側部分に特別支援が全部入っている。果たしてこれで新たな展開というか，従来の考え方になってないかというのが気になっている。ではどこに持っていけば良いのかと言われたときに，正直答えることができない。例えば，無理だろうと思っているが，２階の少人数のところがもう少し広がれば，２つあればいろいろな展開も考えられるし，ピロティの空間が多少寄ったり，狭まったりすれば，そこにも新たな展開が考えられるのかという風に。保健室について，ピロティがあるということは子どもが一旦外に出ることになる。ちょっと私にも想定できないが，土足の子と上履きの子が交差するので，そういった辺りを含めて，これから実施設計の中で配置を一生懸命やればいいと思うが，それを考えたときに，がちがちなので考えられないというのが，正直な印象である。今更というと困ると思うのですけど，そういった予算のこともあるが，何かもう少し左側を工夫し，中心である右側に余裕ができないかなというのは。感想なのだが。今は具体的にこうしてほしいというのはないのだが，考えるのであれば何か夢というか新たな展開ができるようなことがあればうれしいかなという。難しいだろうなとは思っている。こんな風な言い方で申し訳ないが，今すぐ回答とかいうことではないのだが，何かちょっとした工夫が。これから先生方も一緒になって考えていくときに，仕方ないというのではなくて，これはできるかなという風なスペースがあれば，うれしいかなと思った。

事務局　　　　　これは今の配置なので，いわゆる優先順位とか現場に伺いながら，この範囲内で変えることもあるので，またご意見等をお聞かせいただきたいと思っている。

副委員長　　　　例えば今言った配置だけではなくて，ちょっと大きくするとかいうのはかなり厳しいのか。

事務局　　　　　今，できるできないは申し上げられないが，状況を伺って，できるものは対応していきたいと思っているので，できる範囲で工夫しながら，ご要望に応えられるものは応えていけたらなと思っているので，また具体的なものを教えていただけたらと思う。

副委員長　　　　具体的に言ってもらって申し訳ない。やはり「もうこれで決まり」となってしまうと，多分その後，配置を工夫しても難しいところがあると思う。それから，私は建築関係のことはわかっていないので，この柱は無理だとかいうことがあると思うので，また教えていただきたいと思う。

委員長　　　　　原田先生が言われることは，私も理解できる。国連がインクルーシブについて勧告をした。日本が特別支援学級を通常学級から分けていることについてである。それに近い状態になっているので，支援学級とかで勉強する子は普通学級に行きにくい状況にあるのではないか，ということを原田先生が言われていて，私もそれと全く同じで，この案では離れてしまっているので行きにくいと思う。ただ，私もこれだけきれいに収まっている。限界がというのも見えていて，本当をいえばこの２階の図書室のところの少人数教室。特別支援教室としては，この位置が理想形。そのため，もう少し特別支援が通常学級に近づける方法があったら良いなと思うのだけれども，このきれいに入った感じでどこに動かすかなと。図書室の横の少人数教室が欲しいなと思って。１点言えるとしたら，ここから先は基本計画よりも実施設計の段階なのだが，小学校のエリアにある倉庫③・④，そのあたりを特別支援の場所にしたりとか，倉庫ではなく教室として使うことで対応できるかなと。そしてこの多目的スペース，小１から小４の多目的スペースがあるが，ここを府中学園のようにドアをつける。ここを今，教室に壁とドアがあるようになっているが，１つで仕切ってしまうということ。倉庫③と倉庫④のラインでドアを作っていると。４つの教室が１つのオープンスペースを囲むようにしていくと，特別支援に関しても寛容性がある使い方ができようになるのかなと。これも次の実施設計の段階で，なんとか工夫できないかなとは思っている。おそらくここから先の時代は支援の子どもたちも通常学級で過ごす時間がうんと長くなってくると思う。今までのように支援学級にいて，ところどころ通常学級に行くのではなく，逆になっていくと思うので，そういう意味でもう少し力を入れたいと思う。ただ，この余剰スペースを使って，運用できるかなと。

委　員　　　　　この前，笠岡の地域・保護者の方とかが府中学園に来られて，ここでも少し話題になったと思うのだが，要は１０年先・２０年先，子どもの数がだんだんと減少していくことが，府中学園でも見えている。できた当時は１，０００人を超えるのが，今は８００人弱になろうということで，４クラスを想定して作ったのだが，２クラスになっているというような状況で，今はどの学校も子どもの減少ということで，今ここでこういう風に計画をして教室を配置している状況が，来年・再来年，２年・３年で，ここが空き教室になってとか，ここが使わなくなってとか，相当考えるようになる。今の段階でも一生懸命知恵を出して考える中で，１０年先はこうなるから，先程の特別支援学級なども，こういう配置を今後はしていったら良いのではないかと。府中学園もそうだが，特別支援学級がどんどん増えてくる。通常学級は減っているのだが，特別支援は増えているというような状況なので，そういったことも含めて今後，特に数の減少というものを考えながら，教室の配置を考えられるのではないかという風なことを思っている。

委員長　　　　　すごくその通りで，学校の未来を見ていくとずいぶん子どもは減っていく。保護者の方とお子さんが通うという視点から見ていかがか。気になるところはないか。

事務局　　　　　校舎のことではないが，正門から歩行者，金浦小学校の子とか，あとは自転車が入ってくると思うのだが，これは自転車の入口を，今，先生達が入っている駐車場が西側にあるのだが，こちら側から入ることはできないのかと思う。歩行者と自転車が一緒に，同じ時間に来たら危なかったりはしないのか，ということが心配になった。

委員長　　　　　確かに正門に全部集中してしまう。自転車は横からのコンテナが入るところから入る様に分けれるといいと思う。

事務局　　　　　東側から来る子たちは大回りにはなってしまうと思うのだが。

委員長　　　　　自転車用の進入経路というのも検討，選択肢を増やすというのはできる

のか。

委　員　　　　　確かに正門から入るというのが歩行者と自転車になるというのが，数が多くなると思う。ただ，西のコンテナ側から入るのが，コンテナ側の前の道は，これで見てわかるように狭い。ここは保護者の送迎の方の車も通るので，そこに自転車が全部回るのはちょっと厳しいと思う。例えば正門を広げるであったりとか，何か工夫をした方が，ここの方が道幅は広いので，中学生が通る，送り迎えも考えたらやはり，こちら側から自転車が入る必要があるのかなと思う。そのため，正門を今よりも少し広げてとか，歩行者用と自転車用に分けるとか，何かそういうことで工夫できたら良いかと思う。

委員長　　　　　なんとか改善できそうな気がする。今後の改善点としてお願いしたい。

委　員　　　　　先日，府中学園の見学に伺った。そこで良いなと感じたところは，各教室のすぐそばに先生の準備室的な，待機所的なスペースがあったことである。運営上どう使われてるか，先生方がそれを良いと感じられているかどうか，私にはわからないが，先生が児童の身近にいられるというのが，非常に良いなと思った。コの字型について，各教室，先生方の見通しする範囲が狭いので，そこの辺りを，プランの賛成・反対を決めたとき，私はコの字型の方に最終的には賛成したのだが，各教室が直線的にあれば，その階は先生一人が，ずっと端まで見通せてという感じもあったので，そのあたりがコの字型だとできない。そのあたりはどうなのかということで，府中学園の先生に聞いてみたのですけど，確かにおっしゃるとおり見通せはしないがいうことで，言葉を濁された感じで，答えは出てこなかったのですけど，そのあたりはどうなのか。そういうスペースがあった方が先生方にとっていいのかな，児童にとっていいのかということを感じたため，ちょっと考えてみていただいて，必要なものがあれば，あればいいなと思った。

委員長　　　　　今のは教師スペースの話である。これはまた今後の検討になるのか。

事務局　　　　　今の案は職員室しかないが，府中学園は教科の方達が集う場所というか，英語・数学・国語などがあったと思う。笠岡市としても今のところ，中学校棟についてはほとんど特別教室が入ってはいる案だが，壁がなかなか壊せない耐震壁というもあり，スペース的には今のところは難しいかなという状況である。しかし，今後，実施設計を策定していく中で，スペースが取れそうな場合は検討していきたいと考えている。

また，小学校の１年生から４年生までのスペース，コの字型になっているのだが，確かに見通しが悪いというのがある。例えば遊び場である中庭のところを見えやすい，ガラス張りにするとか，費用的な面もあるが，見やすいような環境にして，いろいろな先生が全体が見えるように，そういった環境を作っていきたいと思っている。

委　員　　　　　先生の待機場所があった方が良いのか悪いのか，というのは，先生方に確かめてみてほしい。無駄なものを作ってもいけないので。

委　員　　　　　府中学園の，教室以外のスペースで，１年生から９年生まで教職員がいる場所というのがある。ただこれは，例えば７・８・９年生の教科教室で先生がいる部屋と，あとは１年生とか２年生とかがオープンスペースのところにある，先生の居る部屋というよりもそういった部屋とか，ちょっと使い方が違う。やはり年齢によって使い方が違う。上の中学生のところの部屋は間違いなく各教科の先生が集まって，いろいろ話をしたりとか，時には会合を持ったりといったような，そういった部屋に使えるかもしれない。けれども，小学生の場合は教科担任制ではないので，学級担任制になっている。そのため，ほぼ教室の中に先生がいる。そこへ先生の机はあるので，そこで何かトラブル等があれば先生が走って行く。そこに机とかを置いている部屋は，教材室であったりとか，子ども達ががトラブったときに呼んで，クールダウンをするとか話し合いをするとかいったような，そういった部屋として活用している。そのため，先生の部屋というよりは児童と先生が話をしたりとか，教材を置いているというような，そういった部屋の使い方をしている。

委　員　　　　　教室の目の前の多目的スペースの一角に「ここは入らないでね」という表示があって，先生方が教材というか先生の準備する場所か，先生の机が１つ２つあって，次の授業のための準備のためのスペースなのかなと。

委　員　　　　　お見込みのとおり。

委　員　　　　　スペースは，教室の目の前にあった。

委　員　　　　　教材を置いておいている部屋である。ただ，私はあそこを，今言われたように会議をしたりとか，もっといろいろな使い方があるのではないかなと，それを十分活用した状況にあるのかな，というのは思わないでもない。

委員長　　　　　あそこは音に敏感な子が避難をする場所に使ったりとかに使っている。ただ，多目的スペースが狭いので，壁の位置等を検討する必要がある。

委　員　　　　　最初のところからの話なるが，ピロティ部分について，中学生が来てから南側に抜ける最短の通路になると考えている。そこが抜けている必要があるかどうか。駐輪場としては比較的西側によったところにある。車両まで通り抜けるとのことだが，いっそのことピロティが必要なのかと思う。ここを教室棟としてつなげていけば，一階が余裕を持てる教室設計になる。保健室を職員室側に寄せることも可能となる。そうすれば，運動場で何かあった時に回り込まなくてもすぐに保健室に入ることができる。救急車がということも考えたが，南側から入っても，北側から入っても正面につけることができる。中学生の動線を考えるとこの辺りはどうなのかという意見である。

それから低学年の遊び場だが，縦が１６ｍほどか，横が３６ｍほどか。低学年のあそび場とすると，小１と小２が集うぐらいの場所にしかならない。８０名がそこで遊べるかとなると，絶対無理である。ここの空間の使い方をよく考えないと，遊び場としているのか。遊ぶのは運動場の方なのかと考えてしまうと思った。ですから本当にこれだけの幅が必要なのか，多目的スペース用に場所をとって，ちょっとした集会ができる場として捉えるのか。それによって，多目的スペースの幅が変わってくるのかと思う。

委員長　　　　　これは多目的スペースはもう少しあった方がいいという意見である。低学年のあそび場はここに全部というのは無理だと思うので，グラウンドの方に少し出ていくと。低学年のあそび場と外とのアクセスは通行できるようになっているので，ここで完結することはない。今ご指摘いただいた多目的スペースをもう少し広くというご意見は，ここで全員が集えるわけではないのであれば，ごもっともなご意見だと思う。建築面積が広くなるが，これも検討できる。

もう一点が中学校の動線のことだが，中学生がピロティを通って動くというのはあまり想定していなかったのではないか。

日総建　　　　　中学生は既存の北棟と新設の西側の間を通ったり，もちろんピロティを通ることもある。小学生の昇降口は新設棟東側にあるので，ピロティを詰めてしまうと，運動場に行けなくなってしまう。

委　員　　　　ちょっと全体的なことではないかもしれないが，例えば中学校で今部活をする生徒は，グラウンドの端の部室を活用している。それが撤去されてこの校舎になるが，部室はどこに建設されるのか。もう部活は民間に移っているため，作らないということなのか。実際はどこかに作ってもらえるのか。

　　　　　　　　また，今，野球部のバックネットがある。図面に記載はないので，校舎に当たっても，小学生に当たっても，いけないのでそういう施設も必要と思う。

それから新しくバリアフリーの廊下を中庭に新設することはありがたいが，今もそうだが，廊下が開放廊下で，屋根がついているが横は吹き抜けなので，雨風をしのぐには何かそこに作ってほしい。完璧に囲むのではないが，横にガードできるものがあればいいと思っている。

もう一点，３階に生徒用の更衣室が，２階の更衣室は中３が使うとしても，３階はなかなか使うことがないと思う。これを何か別の用途にできないか。１階・２階にもう一つ更衣室があった方がいいと思った。

事務局　　　　　部室だが，今の想定としては令和８年度以降，部活動の地域移行というなか，今やっている部活動ではなくて，いろんな中学生たちがやっていくっていうことを想定している。

そういった中で，今それぞれの学校でやっている活動がそのまま継続なのかどうかというところだが，おそらく各学校でそれぞれ子どもたちが分かれて部活動をやっている状態が始まってきていると思う。そういった中で，新設アリーナに更衣室があるが，外からも中からも入ることができるようにしたい。土日も地域部活動ということで来た子どもが外からも入れると。そこで男女それぞれが，更衣室で着替えをして準備すると想定している。いろんな道具類は外にある倉庫とか，体育器具庫を活用するというようなイメージで，今ある部室をそのまま残すことは今の計画には入れていない。

野球部については，金浦中学校ではおそらく行わないという想定であるので，バックネットを記載していない。

委　員　　　　　想定はないということか。また，地域移行は必ず行われるというふうに考えたらいいか。

事務局　　　　　その通りである。

委員長　　　　　子どもの数の予想値を見るとなかなか一つの学校でするというのは難しい時代になってくると思う。

委　員　　　　　外トイレがないが，小学校棟のトイレを使うと考えればいいか。

　　　　　　　　また，小１から小４の普通教室が並んでいるが，小１と小２の間に，小３と小４の間に倉庫を移動した方が便利だと思う。

事務局　　　　外トイレは，新設のアリーナの便所を，外からも中からも使えるようにして対応したいと考えている。

　　　　　　　　倉庫の位置だが，今後，基本設計・実施設計に入っていく中で，さらに詰めていきたいと考えている。

委　員　　　　　中学校の東側にある外階段だが，これは非常用の階段か，それとも普段使いする階段か。普段使いだと屋根がないので，雨が降ると使えない。

日総建　　　　　階段は屋外型の階段になっているが，屋根は付いているようにする。通常使うかどうかは運用次第と思っている。法律上，建物に２つ避難できる階段を設けるということになっている。この辺りは設計段階で，建築指導課と十分協議して行きたい。場合によっては位置が変わったりする可能性がある。

副委員長　　　　先ほどから体育館の更衣室が外からと中からと言われているが，小学生がそれで大丈夫かという気がしている。今，金浦小は外トイレと中のトイレがあるが，外と中から入れる更衣室はいろいろな意味で難しいと思う。それから部活がないとなるとスポーツ少年団とか，バレーボールとかいろいろなところが使うことになることも含めて，果たして両方からというものがいいのか，外トイレを作るのか，今後検討が必要と思う。

事務局　　　　　利用方法等についても，今後，実施設計をするなかで，協議していきたい。

委員長　　　　　今，基本計画ということで，大体の配置と部屋割りを決めている。今後，基本設計・実施設計と細かい内容が決まっていく。

　　　　　　　　今回の，基本計画でほかの誇れると思うことは，古い部分を活用し，新しいものを作っていくということ。そして，今後子どもの数が間違いなく減っていく。今，１学年２教室と言っているが，おそらく１０年後には１教室になっていると思う。その時に，新設の小学校棟と西側の２階建て部分に，中学校も含めてすべて持ってくるということができる。この度，新しく作ることで，ここから２０年，３０年先も続けて運用していくことがができる。古い建物を使わなくなってくるかもしれない。新設棟の小１から小４のエリアが小学校エリアになり，小５・小６のエリアが中学校のアエリアになるという風にすると，子どもたちも寂しくない状態で子どもたちが勉強していけるという点で，今後運用しやすいと思う。

もう一点，既存棟の中にＰＴＡ・ボランティア室，展示室が入っている。また，特別教室をたくさん持ってきている。ここは，地域の人たちがボランティアで関わっていく，木工・技術・家庭科など手伝いが必要な時がある。そういった教室がこの中学校棟に入っているので，地域の人が応援しやすい，地域の人たちの活躍の場ができるんじゃないかなと，そういった拠点づくりをやっていける。地域の人がいつもここに集って，サポートに入っていける。今，大阪などでは地域ボランティア増えているから，そういったことができる配置になってきたと思う。

部活動の問題はやむを得ないところだが，今ある資源の中で回していけて，ぼろぼろの空き教室ばかりでないため，子どもたちが寂しい思いをしない，集まって活動する場があるということも，いいと思う。

一番メインは図書室。２階で，小学校棟と中学校棟をつなぐ役割をしている。ここが学校の中心となり，子どもたちが集まる場所になっていく。そうするとかなり面白い。いい学校になるのではないかと期待している。

インクルーシブの視点などは，ここから先の実施設計の中で詳細にやっていかなければいけない。ただ配置についてはこの状態のなかから良い物が出てきたと感心している。

これで意見が出尽くしたので，本日の意見を反映させたものを次回検討委員会でお示しいただきたい。皆さんのおかげで大変いい内容の計画ができたと思う。

最後にパースについて，日総建から説明をお願いしたい。

日総建　　　　　「資料２　パース」に基づき，説明。

　　　　　　　　今まで議論してきた配置図・平面図等について，立体としてどうなるかを表現した。参考としてみていただきたい。（白：既存校舎，グレー：新設棟，茶色：職員室・図書室が入った管理棟）外観の色は，わかりやすくするためにつけており，今後，実施設計のなかで決定していくこととなる。

委員長　　　　　今回の案の感想について，一言ずついただきたい。

副委員長　　　　いろいろな工夫をしていただいている。現場の者としては，来年度実施

設計に向けて，さらに工夫をしていってほしい。

委　員　　　　　これから考えていかないといけないところになるかと思うのだが，光熱費について，世の中莫大に電気代が高くなっている。府中学園もあれだけの建物で，エアコンや蓄熱の暖房をつけてもらったり，工夫をしているが，光熱費を聞いたら目が飛び出るぐらいの金額になる。これからこういった建物を建てるときに，それこそ蓄熱やソーラーとか，要は光熱費をどういうふうに抑えていくような環境・設備をしてくことが問われるのではないかと思う。そのあたりを気にしていた方がいい。

委　員　　　　　電気代が相当上がっているし，体育館の屋根に太陽光の相当大きいものがつけれるのではないかと思う。是非ともそのあたりの検討もすべきと思う。

委　員　　　　　パースの鳥瞰図の中で１つ質問したい。新築棟の屋根の上に斜めなものが付いていて，太陽光パネルとも思ったが，明りとりの屋根のようにも見える。これはどういう仕組みか。北側鳥瞰図を見てもらったらいい。

日総建　　　　　この上がっている部分は勾配の屋根で，北側の高窓からの光を入れるという趣旨で，デザイン的なものでもあるし，もちろん太陽光パネルを載せることも可能かと思う。

委　員　　　　　明りとりとして必要なのか。

日総建　　　　　この部分は１階になる。屋根のデザインも今後設計上で変更可能である。勾配屋根にするのか，フラットな屋根にするのか，今後設計の中で決定していくこととなる。現在のパースは低学年の教室に横からの光だけでなく，北側の高いところから安定した光を取り入れることができるので，そのあたりでも電気代の節約につながると思う。日中は照明をつけなくても，明るい状態が確保されるということがある。

委　員　　　　　回を重ねるごとに我々の意見もいろいろ取り入れていただいて，よいものができてきているのかと思う。今後，今日出た意見を取り入れていただき，よりよいものになればと思う。

委　員　　　　　次のときにはより具体的になると思う。その時にいろいろ話し合いができたらと思う。

委　員　　　　　だいぶイメージも膨らんできた。私の子どもが低学年のころ，学童保育を利用していた。学童保育の時間に，子どもがそれぞれドッジボールをしたり，一輪車に乗ったりしていた。部活がほかのところと一緒になるとすると，校庭全体が学童で使えるようになるが，それまでの間，例えば，中学の野球部が使っているときに子どもが遊んでいるというのは，危ないのではと思った。

委員　　　　　　学校の配置図とかは，保護者目線ではなかなか難しい部分があるが，教育長の挨拶に，環境が人を作るんじゃない，人のために環境があるとの言葉があった。そのために先生方がどういった教育を子どもたちに届けたいというところを一番考えて，配置について最終的な形にもっていってほしい。この金浦中学校の小中一貫校だから，何か子どもたちにとって強みというか，ここに通う子どもたちが他の中学校とは違うものというところで，強みを１つ２つ持っていければ，一番いいと思う。いろいろ小中一貫の流行を入れるのも確かに大切だとは思うが，ここだからこそ作れるものと受けられるもというのが，１つ２つあればいいのかと思った。

事務局　　　　　皆さんに言っていただいたので特にない。今後もよろしくお願いしたい。

委　員　　　　　佐々木先生がわくわくするという言葉を使われたが，いろいろ難しいことがあると思うが，わくわくするようなものになってほしいと思う。

委員長　　　　　それでは他に質問がないようなので，議長の職を引きたい。

４　閉会（１１：３９）　次回の整備検討員会は，３月後半に開催の予定。